

一、【世界に誇る研究】

「最先端研究」×「暮らし」＝「持続可能な未来」

× 冷暖房

地中と外気の温度差を活用する 省エネの空調システム

岐阜大学工学部 社会基盤工学科 准教授／大谷具幸

× スパティフィラム

岐阜独自の 観葉植物の新品種を開発

岐阜大学応用生物科学部 園芸学研究室 教授／福井博一

× 家具

世界初の圧縮成形加工が 木材の可能性を広げる

岐阜大学応用生物科学部
環境分子科学 バイオマス変換学研究室 教授／棚橋光彦

× 基礎研究

新しい農薬や医薬の発明に 役立つ薬理作用を解明

岐阜大学教育学部 理科教育講座(化学) 特任教授／利部伸三

二、【自然観察・縞々学】

地球が教えてくれること

岐阜大学教育学部 理科教育講座(地学) 教授／川上紳一

三、【サークル活動】

あなたの環境マインドを教えてください

【特集】

持続可能な社会を目指して

岐大が創る、 人と自然が共存する未来

「サステイナブル」あるいは「持続可能」という言葉をよく目にするようになってきました。

この言葉は、1992年にブラジルのリオデジャネイロで開かれた「地球サミット」を契機として使われ始めました。

このサミットでは、地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、そして希少生物の保護について、世界各国の人たちが議論しました。

日本の国会議員はほぼ全員が参加したといわれています。

ここでは、「宇宙船地球号の船体に支障が出始めた、このままでは地球人全員死滅だ」という危機意識からの議論が行われ、「持続可能な開発」という概念が共通認識として提唱されました。

その後、炭酸ガス排出抑制、炭素税という考え方が出され、「京都サミット」「洞爺湖サミット」をはじめ、

ほぼ毎年のように各国の首脳が集まって

地球環境問題の解決に知恵を出し合っています。

ノーベル平和賞を受賞されたケニアのワンガリ・マータイ女史は、「MOTUNAI」という日本語の一言に環境保護の精神がすべて含まれていることを世界に示してくれました。

岐阜大学では、創立以来、環境に関する学問を学生とともに研究し、社会に発信してきました。

そして、平成21年には「環境ユニバーシティ」を宣言し、

環境に関連した教育研究活動を継続的に展開して

地域社会に貢献し、地域社会とともに歩むことを誓いました。

ここでは、我々の活動の一端を紹介し、

自然環境や地域と共生していくことの大切さと、

大学が担う役割を改めて確認して頂ければ幸いです。

TEXT.. 研究推進・社会連携機構 副機構長／学長補佐 高見澤 一裕